



茶業青年団の相藤直紀さんが子どもたちに茶の特徴などをレクチャーした



子どもたちは、各班に分かれておいしいお茶の入れ方を実践しました。



お茶の町「川根本町」だからこその実体験教室に子どもたちの歓声響く 本川根小学校で初開催 おいしいお茶の入れ方教室

本小3〜6年生が学んだ「おいしいお茶の入れ方」

川根茶業青年団が主催する「おいしいお茶の入れ方教室」は9月27日、本川根小学校で開かれ、同校3から6年生の児童約50人が参加しました。

川根茶の町のこれからを担う子どもたちに、お茶に親しみ、お茶を知る機会を与えたいという目的で、毎年町内各小学校の3年生を対象に開かれています。本小では初の試みとなった今回の教室。茶業青年団団員の中村さんは「各学校3年生を対象としています。本川根小は今回が初めてなので3〜6年生を対象としました。一人でも多くの子がおいしいお茶の入れ方を体験し、川根茶に親しんでほしい」と話していました。午前10時から始まった教室では、まずはじめに基礎知識の講義から。相藤直紀さんが講師を務め、お茶の成分、川根茶の特徴などについて説明しました。「本町は昼間の日照が少な

い地域です。するとアミノ酸といううまみ成分が増え、茶の味わいが深くなります。また寒暖の差が激しい気候によって、葉に養分が蓄えられやすいという特徴もあります」と話すと、初めて知るお茶の秘密に感心しきりの子どもたち。お茶の歴史や効能などを紹介するビデオを上映すると、出題されたクイズにみんなで頭をひねりました。10時半からは、待ちに待ったお茶の入れ方の体験。6つの班に分かれた子どもたちは、各班についた青年団のアドバイスを受けながら、慎重においしいお茶の入れ方を実践し、みんなが味わって見ました。「あまくておいしい」「家で飲むより味が濃い気がする」などの声があちこちに飛び交い、教室内は一気ににぎやかな雰囲気。指導に当たっていた団員の坂本さんは「みんななまじめに取り組んでくれてうれしです。元気に楽しそうに体験してくれて良かった」と思わず顔がほころんでいました。



小写真右から 教材に用いられた高級煎茶などの実物 お土産に好きなお茶をもらってにっこり 自分たちで入れたお茶はどんな味がするか



川根茶を知ること
本町の良さを知るきっかけに

全員で「高級煎茶」を味わった後は玉露、ほうじ茶、抹茶入り玄米茶など数種類のお茶から、各班ごと好みのお茶を選別して、再びおいしい入れ方に挑戦しました。体験後には子どもたちから「これからは自宅でも自分で進んでお茶を入れて家族においしいお茶を飲ませてあげたいと思います」などの感想が聞かれました。教室の最後には川根茶業協同組合のからいで、子どもたち一人一人に急須をプレゼントするサプライズ。子どもたちから、この日一番大きな声が上がりました。本川根小学校松本晴巳校長は「おいしいお茶の入れ方はなかなか難しいものですが、この町に住んでいても知らない子も結構いるんじゃないかと思えます。お茶の町ですから、お茶と触れ合う体験は素晴らしい機会。地域の良さを知らなければなりません」と話していました。

初めて参加した「おいしいお茶の入れ方教室」はどうでしたか？



山下由貴さん (本川根小学校6年)

これまで意識したことはなかった「おいしいお茶の入れ方」。青年団の人たちに教えてもらい、改めて知ることができました。私は抹茶入り玄米茶が一番おいしかったです。今日学んだことを生かして、おじいちゃん、おばあちゃんにお茶を入れてあげたいです。



山下素弘さん (本川根小学校6年)

日頃飲んでいるお茶にはいろいろな成分がたくさん含まれていることを知り驚きました。抹茶入り玄米茶というお茶があるのを知ったのも初めてです。これからは、教室で教わった入れ方を家で実践します。お父さんやお母さんにお茶を入れてあげたいです。

みんなことを学びましたか？ 教室の最後に感想を発表した4人の声



宮島洸樹さん (本川根小学校6年)

お茶はむし歯予防になる、スポーツや勉強にも良いなどの効果があることを知りました。煎茶、玉露、玄米茶などいろんなお茶を味わうこともできました。おいしい入れ方をマスターしたので、毎日家でも自分で入れ、家族みんなの健康を守りたいと思います。



松葉芽生さん (本川根小学校5年)

家では、妹がお茶を入れているのを見たことはありましたが、自分で入れたことはありませんでした。今日の教室では抹茶入り玄米茶や高級煎茶がすごくおいしかったです。これからは、家でお父さんやお母さんにお茶を入れてあげたいと思います。